

1. 科目名 (単位数)	対照言語学 (2単位)	3. 科目番号	EIJP3345
2. 授業担当教員	松浦 康世		
4. 授業形態	講義、ディスカッション、演習	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係	3年次以上		
7. 講義概要	日本語と他の言語と共時的に比較対照する方法、および日本語の誤用分析の方法を勉強する。対照と誤用分析によって得られた知見を日本語教育にどのように応用するかもあわせて検討する。また、日本語教育への応用という視点から、日本語学習者にとって特に習得困難とされる項目を取り上げ、習得を困難にさせるさまざまな要因について検討していく。		
8. 学習目標	1. 比較対照および誤用分析に関する基本的概念を理解し、説明できるようになる。 2. 日本語学習者の習得を困難にさせる要因について分析できるようになる。		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	1. 宿題 (10点×2回) 2. まとめテスト (20点) 3. 期末レポート (20点)、口頭発表 (10点)		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】授業内でプリントを配布する。 【参考書】授業内で適宜紹介する。		
11. 成績評価の規準と評定の方法	成績評価の規準(学習目標) 1 比較対照および誤用分析に関する基本的概念を理解し、説明できるようになったか。 2 日本語学習者の習得を困難にさせる要因について分析できるようになったか。 評定の方法 以下の点を総合して評価する 1 授業への参加態度 総合点の30% 2 試験(小テスト・期末テスト・口頭発表試験等) 総合点の30% 3 提出課題(レポート等) 総合点の40% なお、本学規定により、3/4以上の出席が確認できない場合は単位の修得は基本的に認められない。		
12. 受講生へのメッセージ	授業で誤用分析を学ぶだけでなく、実際に日本語学習者と会話をし、意識的に間違いを聞き取り、その背景にある言語の違いを認識してほしい。		
13. オフィスアワー	初回の授業で周知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	ガイダンス (学習の進め方、課題、評価方法)	事前学習	シラバスを読み、講座の概要を理解する。
		事後学習	スケジュールに沿って学習計画を立てる。
第2回	言語学の研究分野 (言語学の歴史、研究の対象、言語の側面)	事前学習	言語学にどんな分野があるのかを調べる。
		事後学習	学んだことや疑問点を整理しておく。
第3回	対照言語学と隣接分野 (比較言語学、言語類型論、応用言語学)	事前学習	対照言語学の概要について調べる。
		事後学習	学んだことや疑問点を整理しておく。
第4回	対照研究の方法	事前学習	対照言語学の研究方法について調べる。
		事後学習	学んだことや疑問点を整理しておく。
第5回	言語転移と中間言語 (正の転移と負の転移、中間言語の研究)	事前学習	言語転移と中間言語の研究について調べる。
		事後学習	学んだことや疑問点を整理しておく。
第6回	誤用分析 (誤用分析の意義、正確さと適切性)	事前学習	誤用分析の意義を考える。
		事後学習	学んだことや疑問点を整理しておく。
第7回	誤用の種類 (文・談話、脱落・付加、語形成、活用、時制など)	事前学習	誤用分析の練習問題を解く。
		事後学習	学んだことや疑問点を整理しておく。
第8回	誤用分析の実践、まとめテストの準備 (誤用分析の練習と解説)	事前学習	誤用分析の練習問題を解く。
		事後学習	学んだことや疑問点を整理しておく。
第9回	まとめテスト レポート課題提示	事前学習	これまで学んだことを復習する。
		事後学習	レポート課題の計画を立てる。
第10回	まとめテストの返却と解説 レポートの作成方法	事前学習	レポート課題のテーマと題材を考える。
		事後学習	テストで間違えた問題を復習する。
第11回	英語母語話者の誤用例 (英語と日本語の違いをふまえた誤用分析)	事前学習	英語と日本語の違いを考える。
		事後学習	学んだことや疑問点を整理する。
第12回	中国語母語話者の誤用例 (中国語と日本語の違いをふまえた誤用分析)	事前学習	中国語と日本語の違いを考える。
		事後学習	学んだことや疑問点を整理する。
第13回	韓国語母語話者の誤用例 (韓国語と日本語の違いをふまえた誤用分析)	事前学習	韓国語と日本語の違いを考える。
		事後学習	学んだことや疑問点を整理する。
第14回	口頭発表、質疑応答 レポート課題の確認 (評価項目、自己評価)	事前学習	レポートを完成させ、発表の準備をする。
		事後学習	発表とレポートについて自己評価をする。
第15回	復習、疑問点について話し合い レポート提出	事前学習	疑問点があれば整理しておく。
		事後学習	学習を振り返り、今後の課題を見つける。